

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	きれいなまち推進計画事業			事業コード	2040
所属コード	054500	課等名	資源循環推進課	係名	資源化推進係
課長名	鈴木 利昭	担当者名	大志田康幸	内線番号	8324
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要（旧総合計画体系における位置づけ）

総合計画 体系（旧）	施策の柱	環境との共生	コード	6
	施策	地球環境への貢献	コード	3
	基本事業	廃棄物の発生抑制・再使用・再生利用	コード	2
予算費目名 (H26)	一般会計 4 款 2 項 1 目 きれいなまち推進事業（006-01） 一般会計 4 巻 2 項 2 目 塵芥収集運搬委託事業（001-04）			
特記事項 (H26)				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度			開始年度 19 年度
根拠法令等 (H26)	廃棄物の処理及び清掃に関する法律，盛岡市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例，盛岡市一般廃棄物処理基本計画，もりおか 30 万人のごみ減量化行動計画			

(2) 事務事業の概要

町内会・自治会，きれいなまち推進協議会と協働で「きれいなまちもりおか 30 万人の推進プラン」を策定し，その成果等を検証しながらごみ問題解決のための一体となり取り組んでいる事業である。なお，同プランは，事業者・市の取組みも含めた「もりおか 30 万人のごみ減量化行動計画」として統合された。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

ごみの問題に関する苦情，要望，問い合わせが年間 2 万件を超える状況の中，その問題の解決を目指し，きれいなまち推進員の協力，盛岡市町内会連合会，玉山自治会連絡協議会との懇談会を通じて，分別に関する周知方法や収集方法を改善することにした。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

きれいなまち推進員，盛岡市町内会連合会，玉山自治会連絡協議会と協働を進めながら，市民にわかりやすい「ごみの分け方・出し方収集カレンダー」，「ごみ分別辞典」，「めぐるちゃん便り」などの作成，配布し，また，ホームページの活用した周知方法により 19 年度以前より分別の周知が図られてきている。資源化推進のため平成 22 年 8 月から盛岡・都南地域でのプラスチック・紙製容器包装の分別収集，平成 25 年 4 月から盛岡地域で小型家電の回収を実施するなど，分別品目が増え，これまで以上にわかりやすい周知啓発を図っていく必要がある。今後も平成 23 年度に策定された「もりおか 30 万人のごみ減量化行動計画」に基づき，引き続き市民，事業者との協働でごみ減量資源再利用を進めることとしている。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）対象（誰が、何が対象か）

市民・事業所

（2）対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 見込み	26 年度 実績
A 市民	人	299,568	299,220	297,772	294,280	299,927
B 事業者	箇所	15,625	15,625	15,625	15,625	15,625
C						

（3）26 年度に実施した主な活動・手順

市民向けにきれいなまち推進懇談会，ごみ減量資源再利用懇談会，ごみ分別説明会等，幼稚園・保育園，小学校等，大学生，専門学校生を対象に啓発教室，職場体験学習等を実施、事業所，不動産管理会社を対象に訪問指導，啓発を実施し，適正排出に向け，ごみの分け方，出し方の周知啓発を図った。

また，盛岡地域（一部地域を除く）では，収集体制の見直し行い可燃ごみの午前収集を実施し市民サービスの向上を努めた。

（4）活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 早期収集を図った地区世帯数	世帯	15,121	7,643	8,173	8,000	6,203
B 訪問啓発件数	件	135	147	211	220	163
C						

（5）意図（対象をどのように変えるのか）

市民，事業者にごみ減量資源再利用に向けた意識を持たせ，市のごみ減量施策に対して積極的に取り組んでもらえるよう，ごみ減量資源再利用の情報を分かりやすい形で提供し，正しい排出方法，ごみの分別方法の理解を得て，きれいなまち盛岡を実現する。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 苦情などの電話件数	□上げる ■下げる □維持	件	9,575	7,149	8,717	5,000	5,126
B	□上げる □下げる □維持						
C	□上げる □下げる □維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 計画	26 年度 実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0	0
	④一般財源	千円	999	1,114	922	0	0
	⑤その他（地球温暖化対策 実行計画推進基金， 磁性 物等回収資源収入）	千円	4,029	4,738	2,898	9,884	9,902
	A 小計 ①～⑤	千円	5,028	5,852	3,820	0	9,902
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	479	357	436	250	256
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	1,919	1,428	1,744	1,000	1,024
計	トータルコスト A+B	千円	6,947	7,280	5,564	10,884	10,926
備考							

3 事務事業の評価（See）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

平成 17 年度に 26,000 件あった苦情が，平成 26 年度には約 5 分の 1 に減少しており，この事業の意図は結果に結びついているといえる。

② 市の関与の妥当性

一般廃棄物は，市町村が分別の方法を定め，処理施設を整備し，適切にごみを収集して処理するほか，減量や再生利用に努める責任があるため，市が行う必要がある事業である。

③ 対象の妥当性

この事業の対象は全市民，市内全事業所であり，対象の範囲は今後とも変わることはない。

④ 廃止・休止の影響

啓発活動の廃止・休止は，市民のごみ分別意識の低下を招き，ごみ問題を増やすことにつながる。

ごみ早期収集の廃止は，ごみ集積場所がカラスに荒らされたり，ごみ集積場所を管理する町内会・自治会担当の負担が大きくなるなど，ごみ問題を増やすことにつながる。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

啓発活動の充実及び早期収集の推進により向上させることができる。

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

特定の受益者はいない。

(4) 効率性評価

もともと事業費がなく，人件費に関しても，正職員の非常勤職員化を図りながら人員を確保してきたものであり，これ以上の削減はできない。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要（新しい総合計画体系における位置付け）

総合計画 体系（新）	施策（方針）	地球環境の保全と自然との共生	コード	20
	小施策（推進項目）	資源循環型社会の形成	コード	20-3

(2) 改革改善の方向性

平成 23 年度，「もりおか 30 万人のごみ減量化行動計画」を策定し，市民との協働のもと，より一層のごみ減量を進めることとしており，ごみ問題の変化に柔軟に対応して，プランも具体的な成果・目標を盛り込みながら随時改善していき，関連事業との連携を強めながら成果の向上を目指していく。

(3) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

市議会や廃棄物対策審議会，ごみ減量資源再利用推進会議，ごみ問題懇談会，ごみ減量資源再利用懇談会，きれいなまち推進懇談会などで出された意見を踏まえつつ，盛岡市町内会連合会，玉山区自治会連絡協議会，きれいなまち推進協議会と一体となって進め，問題の解決を図る。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- ☐ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☒ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）

□ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

現在の盛岡市ごみ処理基本計画は、平成 28 年度が最終年度となっており、これに基づき策定された「もりおか 30 万人のごみ減量化行動計画」も中間年度を終了したことになる。この間、ごみの排出量削減計画数値は達成されることなく、むしろ微増の傾向を示してきている。この事実を重く受け止め、計画と実績の差異の原因を考察し、平成 27 年度からの 2 年間及び次期行動計画策定のための分析等を含め、大幅な改革改善が必要となっている。